

第6 令和6年度企業会計決算の状況

企業会計は、県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、流域下水道事業、病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

1 水道事業の概況

営業関係では、北中勢水道用水供給事業（北勢系・木曽川用水系：給水能力80,300m³／日、北勢系・三重用水系：給水能力51,000m³／日、北勢系・長良川水系：給水能力18,000m³／日、中勢系・雲出川水系：給水能力81,416m³／日、中勢系・長良川水系：給水能力58,800m³／日）及び南勢志摩水道用水供給事業（給水能力139,850m³／日）の2事業を運営し、令和6年度は県内18市町に対し、延べ74,478,294m³の給水を行いました。

令和6年度の営業成績について、事業収益は9,074,375千円（対前年度比98.9%）で、内訳は、営業収益8,053,438千円（対前年度比98.3%）、営業外収益987,560千円（対前年度比102.1%）及び特別利益33,377千円（対前年度比319.0%）であり、また、事業費用は9,283,342千円（対前年度比101.2%）で、内訳は、営業費用9,053,833千円（対前年度比101.7%）及び営業外費用229,508千円（対前年度比87.0%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額208,967千円が当年度の純損失となりました。

一方、改良事業では、地震等の災害に備えるとともに水道用水の安定供給を図るため、北中勢水道用水供給事業及び南勢志摩水道用水供給事業において耐震化や老朽化対策などの施設改良を計画的に実施しました。

令和6年度損益計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	9,053,833	営業収益	8,053,438
原水及び浄水費	2,719,538	給水収益	8,049,418
配水費	776,226	その他営業収益	4,020
業務費	381,987		
総係費	399,057		
減価償却費	4,588,137		
資産減耗費	188,888		
営業外費用	229,508	営業外収益	987,560
支払利息及び企業債取扱諸費	152,005	受取利息	7,336
受託工事費	76,508	他会計補助金	44,379
雑支出	996	受託工事収益	76,508
		長期前受金戻入	830,223
		雑収益	29,114
		特別利益	33,377
		その他特別利益	33,377
		当年度収益合計	9,074,375
		当年度純損失	208,967
合 計	9,283,342	合 計	9,283,342

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

令和6年度損益計算書＜P／L＞（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方	貸 方
営業費用 9,053,833 (97.5%) 営業外費用 229,508 (2.5%) 合 計 9,283,342	営業収益 8,053,438 (86.8%) 特別利益 33,377 (0.4%) 営業外収益 987,560 (10.6%) 当年度純損失 208,967 (2.2%) 合 計 9,283,342

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

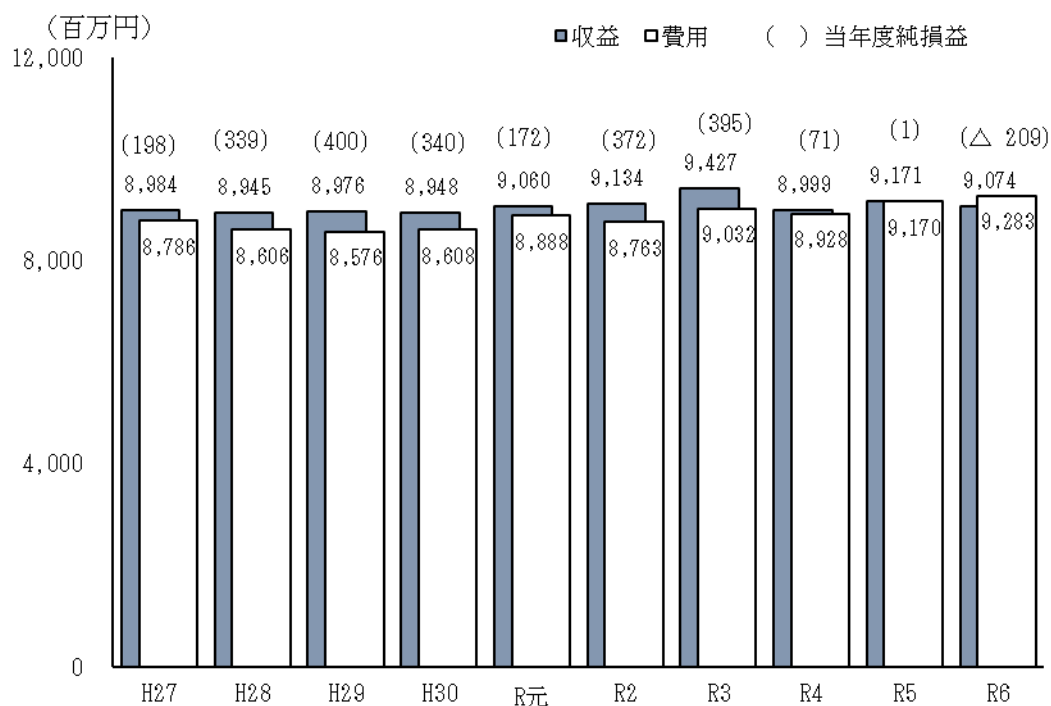
貸借対照表＜B／S＞（令和7年3月31日現在）

（単位：千円、％（構成比））

借 方	貸 方
固定資産 116,108,120 (92.2%)	固定負債 10,361,724 (8.2%)
	流動負債 3,009,698 (2.4%)
	繰延収益 20,006,806 (15.9%)
	資本金 91,777,741 (72.9%)
流動資産 9,780,114 (7.8%)	剰余金 732,266 (0.6%)
	資本剰余金 869,153
合計 125,888,234	欠損金 136,887
	合計 125,888,234

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

年度別の総収益・総費用の推移



（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 726,140 m³/日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 17,070 m³/日）及び松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 m³/日）の3事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、令和6年度においては106工場に対し、延べ208,778,438 m³の工業用水を供給しました。

令和6年度の営業成績について、事業収益は5,869,511千円（対前年度比100.6%）で、内訳は、営業収益5,371,048千円（対前年度比98.8%）、営業外収益362,041千円（対前年度比93.1%）及び特別利益136,421千円（対前年度比1303.9%）であり、また、事業費用は6,042,847千円（対前年度比105.0%）で、内訳は、営業費用5,876,216千円（対前年度比105.8%）、営業外費用166,631千円（対前年度比81.3%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額173,336千円が当年度の純損失となりました。

一方、改良事業では、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽化施設の更新・補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

令和6年度損益計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	5,876,216	営業収益	5,371,048
原水及び浄水費	1,921,781	給水収益	5,141,448
配水費	318,607	その他営業収益	229,600
業務費	255,631		
総係費	356,252		
減価償却費	2,826,123		
資産減耗費	197,822		
営業外費用	166,631	営業外収益	362,041
支払利息及び企業債取扱諸費	165,467	受取利息	5,771
雑支出	1,164	他会計補助金	6,040
		長期前受金戻入	337,229
		雑収益	13,001
		特別利益	136,421
		その他特別利益	136,421
		当年度収益合計	5,869,511
		当年度純損失	173,336
合 計	6,042,847	合 計	6,042,847

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

令和6年度損益計算書<P/L> (令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位：千円、% (構成比))

借 方	貸 方
営業費用 5,876,216 (97.3%)	営業収益 5,371,048 (88.9%)
営業外費用 166,631 (2.7%)	特別利益 136,421 (2.2%)
	営業外収益 362,041 (6.0%)
合計 6,042,847	当年度純損失 173,336 (2.9%)
	合計 6,042,847

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

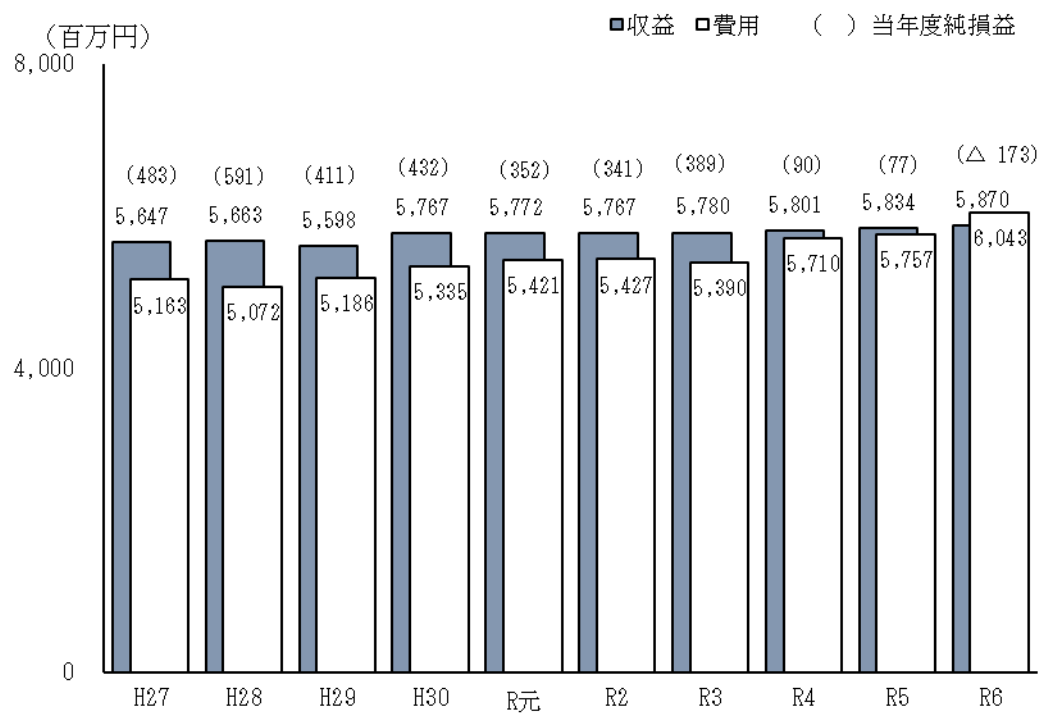
貸借対照表<B/S> (令和7年3月31日現在)

(単位：千円、% (構成比))

借 方	貸 方
	固定負債 25,303,209 (20.7%)
	流動負債 1,834,496 (1.5%)
	繰延収益 16,068,419 (13.2%)
固定資産 114,932,486 (94.1%)	資本金 77,686,646 (63.6%)
流動資産 7,182,880 (5.9%)	剰余金 1,222,597 (1.0%)
	資本剰余金 1,228,734
	欠損金 6,137
合計 122,115,366	合計 122,115,366

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

3 流域下水道事業の概況

営業関係では、北勢沿岸流域下水道事業（北部処理区：処理能力149,500m³/日、南部処理区：処理能力64,600m³/日）、中勢沿岸流域下水道事業（志登茂川処理区：処理能力11,300m³/日、雲出川左岸処理区：処理能力40,200m³/日、松阪処理区：処理能力47,500m³/日）及び宮川流域下水道事業（宮川処理区：処理能力26,800m³/日）の3流域6処理区を運営し、令和6年度は県内15市町からの汚水86,515,287m³を処理しました。

令和6年度の営業成績について、事業収益は13,695,749千円（対前年度比104.5%）で、内訳は、営業収益6,280,424千円（対前年度比110.9%）及び営業外収益7,415,325千円（対前年度比99.6%）であり、また、事業費用は13,478,716千円（対前年度比103.6%）で、内訳は、営業費用12,953,288千円（対前年度比104.5%）及び営業外費用525,427千円（対前年度比95.9%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額217,033千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業では、公共用水域の水質保全と生活環境の改善を図るため、流域下水道の整備を推進するとともに施設の老朽化対策など施設改良を計画的に実施しました。

令和6年度損益計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	12,953,288	営業収益	6,280,424
管渠費	31,739	維持管理負担金収益	6,280,424
ポンプ場費	129,735		
処理場費	5,213,429		
総係費	138,031		
減価償却費	7,370,888		
資産減耗費	69,468		
営業外費用	525,427	営業外収益	7,415,325
支払利息及び企業債取扱諸費	497,045	受取利息及び配当金	0
雑支出	28,382	他会計補助金	544,958
		長期前受金戻入	6,833,309
		雑収益	37,058
当年度費用合計	13,478,716		
当年度純利益	217,033		
合 計	13,695,749	合 計	13,695,749

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

令和6年度損益計算書＜P／L＞（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円、％（構成比））

借 方	貸 方
	営業収益 6,280,424 (45.9%)
営業費用 12,953,288 (94.6%)	
	営業外収益 7,415,325 (54.1%)
営業外費用 525,427 (3.8%)	
当年度純利益 217,033 (1.6%)	
合計 13,695,749	合計 13,695,749

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

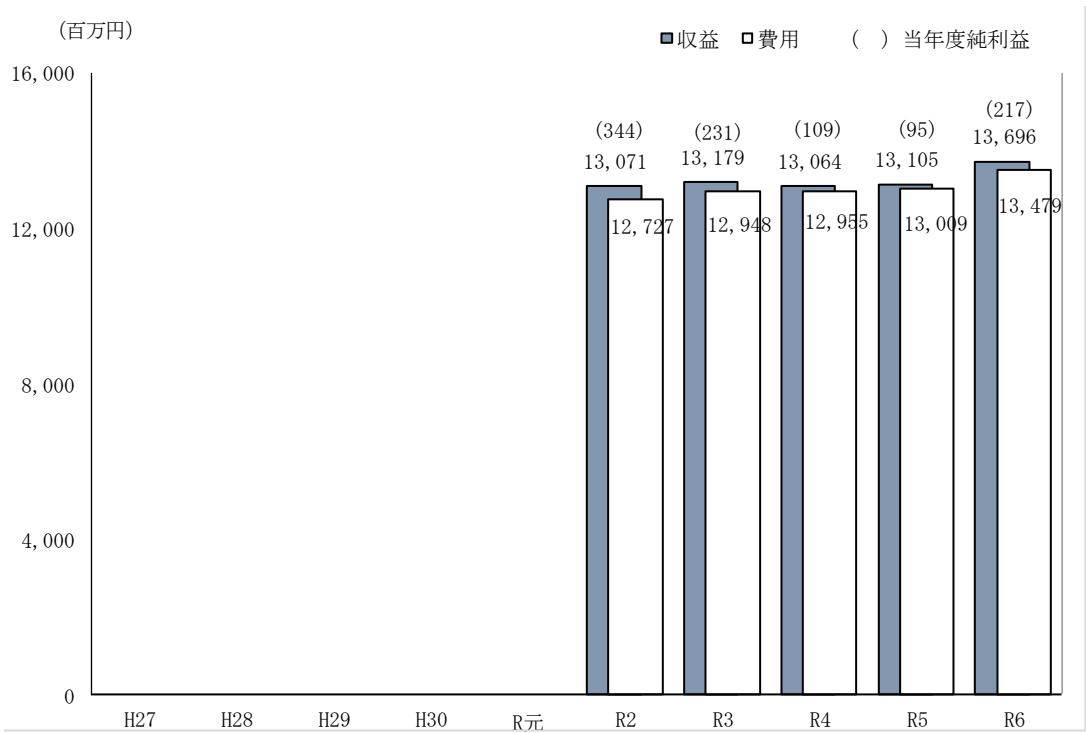
貸借対照表＜B／S＞（令和7年3月31日現在）

（単位：千円、％（構成比））

借 方		貸 方	
固定資産 233,570,687 (97.6%)		固定負債 34,392,874 (14.4%)	
		流動負債 7,677,761 (3.2%)	
		繰延収益 166,815,244 (69.7%)	
		資本金 9,760,349 (4.1%)	
流動資産 5,787,683 (2.4%)		剰余金 20,712,141 (8.6%) 資本剰余金 19,856,891 利益剰余金 855,250	
合計 239,358,370		合計 239,358,370	

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

年度別の総収益・総費用の推移



（四捨五入のため、差引が合わない場合があります。）

※令和2年度から地方公営企業法の一部を適用しているため、令和元年度以前の損益情報はありません。

4 病院事業の概況

三重県病院事業においては、こころの医療センター、一志病院及び指定管理者制度を導入している志摩病院の3病院を管理運営し、県民の皆さんや地域に信頼され、かつ医療従事者にとって魅力ある病院づくりを進めながら、良質で満足度の高い医療サービスを提供しているところです。

令和6年度は、こころの医療センターにおいては、県内の精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を行うとともに、経営の健全化に取り組みました。志摩病院においては、指定管理者である公益社団法人地域医療振興協会により、診療機能の充実を図りながら、志摩地域の中核病院としての取組を進めました。

これらの3病院の運営状況については、入院患者数が延べ145,470人（1日平均398.5人）、外来患者数が延べ115,099人（1日平均473.7人）で、前年度に比べ入院患者数は延べ3,254人の減少、外来患者数は延べ2,358人の減少となりました。

収益については、一般会計からの繰入金等が増加したことなどから、経常収益は5,330,984千円となり、前年度に比べ1.2%増加しました。

また、費用については、医業費用において給与費や経費等が増加したことなどから、経常費用は5,854,339千円となり、前年度に比べ10.2%増加しました。

その結果、これらを差引した経常損益は523,354千円の赤字となりました。

なお、建設改良費については、こころの医療センターにおける全身用X線CT装置一式の購入や一志病院における直流電源装置更新工事、志摩病院における放送設備改修工事等により総額406,894千円を執行しました。

令和6年度損益計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	5,654,272	医業収益	2,431,544
給与費	2,996,838	入院収益	1,859,103
材料費	251,295	外来収益	424,747
経費	1,829,069	その他医業収益	147,693
減価償却費	550,763		
資産減耗費	14,339		
研究研修費	11,967		
医業外費用	200,067	医業外収益	2,899,440
支払利息及び企業債取扱諸費	68,678	受取利息配当金	616
長期前払消費税償却	27,587	他会計補助金	119,470
患者外給食材料費	433	長期前受金戻入	314,884
雑損失	103,370	補助金	6,389
		負担金	2,265,669
		その他医業外収益	192,414
		当年度収益合計	5,330,984
		当年度純損失	523,354
合 計	5,854,339	合 計	5,854,339

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

損益計算書＜P／L＞（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円、％（構成比））

借 方		貸 方	
医業費用	5,654,272 (96.6%)	医業収益	2,431,544 (41.5%)
		医業外収益	2,899,440 (49.5%)
		当年度純損失	523,354 (8.9%)
医業外費用	200,067 (3.4%)		
合 計	5,854,339	合 計	5,854,339

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

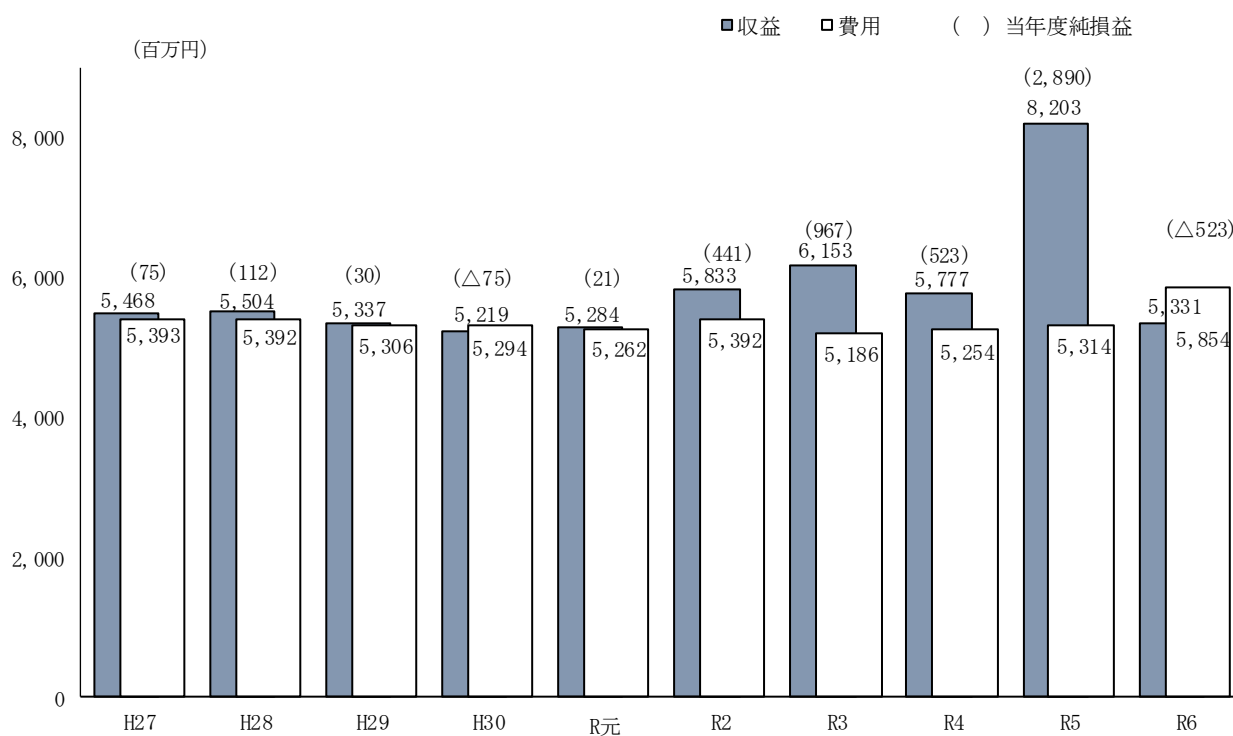
貸借対照表＜B／S＞（令和7年3月31日現在）

（単位：千円、％（構成比））

借 方		貸 方	
固定資産	7,493,802 (80.4%)	固定負債	10,157,027 (109.0%)
		流動負債	1,302,849 (14.0%)
		繰延収益	1,102,471 (11.8%)
		資本金	311,410 (3.3%)
流動資産	1,828,568 (19.6%)	剰余金	△3,551,386 (△38.1%)
		資本剰余金	1,371,559
		欠損金	4,922,945
合計	9,322,370	合計	9,322,370

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

年度別の総収益・総費用の推移



（四捨五入のため、差引が合わない場合があります。）